

科目	学籍番号	氏名
----	------	----

朝日新聞 時事ワークシート

天声人語 漢字

①～⑩のひらがなは漢字に直し、⑦～⑨の漢字は読み方を書きなさい。

暑気払いに秋の話を一つ。作家の三浦哲郎が、秋の里山に友人と分け入り、マツタケをとったときのことを書いています。ビールの肴にするべく、すぐにとき火で丸焼きにし、指でむしってたばたというから**ごうせい**だ▼夕方、帰りの汽車に乗ると、どこからともなくマツタケの**かおり**がする。手はよく**洗**つたし、不思議に思ったが、出どころは自分たちの耳だった。焼けたマツタケをむしるときに**しる**にまみれた指先が熱く、何度も耳たぶをつまんでいたという（「耳たぶの秋」）▼うらやましくなるのは、いまの日本におけるマツタケの**えん**遠さゆえである。それがさらに遠くなりそうな記事がきのうの**朝刊**にあった。国際自然保護連合がマツタケを**絶滅危惧種**のリストに載せたという▼理由はとりすぎかと思いきや、そうではなく「健全な松林が**へ**つているため」との**せんもん**家の談話があった。たべるのを**控**える必要はないと言われても、安心する人は少ないだろう。「**我が家**ではとくに**絶滅危惧種**」。そんな**ご同輩**もおられるか▼「**人新世**」という言葉があ

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア

*解答のヒントになる漢字はひらがなになっていることがあります。

る。人類の活動が地球**かんきょう**を大きく変えてきたことを表現するため、新たに**設**けられた時代区分である。ホモ・サピエンスは無数の種を**絶滅**させてきた**罪深い**動物であり、そのペースは近年速度を**ま**している▼**絶滅危惧種**のニュースが**しょくたく**を**直**撃することが目立ってきた。マツタケの前には、**ニホンウナギ**に**クロマグロ**。「○○よ、おまえもか」は、いったいどこまでふえるのだろうか。

語注

- *暑気払い 暑さに負けないように元気づけること。
- *三浦哲郎 1931～2010。小説家。「忍ぶ川」で芥川賞受賞。
- *里山 集落、人里近くの山。
- *肴 酒などを飲むときのたべ物。
- *ごうせい とてもぜいたくなこと。
- *えん遠さ 関係の薄さ。むえんさ。
- *ゆえ 「○○ゆえで」「○○だから○○のため」。
- *絶滅危惧種 絶滅のおそれの非常に高い野生生物。
- *リスト 国際自然保護連合が作成した絶滅のおそれのある野生生物の一覧。レッドリスト。
- *ご同輩 同輩（年齢や入学や入社時期などが同じ人）に丁寧の「ご」をつけた表現。相手の同輩を敬う場合に使う。
- *ホモ・サピエンス 現生の人類を意味する学名。
- *罪深い 罪をいくつも重ねている。
- *ペース 進み具合。テンポ。
- *直撃する 被害を直接受ける。
- *ニホンウナギ 太平洋のマリアナ海溝近くで産卵し、黒潮に沿って日本や中国、台湾周辺に稚魚がやってくる。2013年には、かんきょう省による日本のレッドリストで絶滅危惧種に指定された。
- *クロマグロ マグロ全体の約2%と希少で、ミナミマグロやメバチマグロより高値。卵からの完全養殖はとても難しい。

科目	学籍番号	氏名
----	------	----

朝日新聞 時事ワークシート

天声人語 漢字

①～⑩の漢字は読み方を
書き、⑦～⑩のひらが
なは漢字に直しなさい。

しよきばらいに秋の話を一つ。作家の三浦哲郎が、秋の里山に友人と分け入り、マツタケを採ったときのことを書いています。ビールの肴にするべく、すぐにたき火で丸焼きにし、指でむしって食べたというから豪勢だ▼夕方、帰りの汽車に乗ると、どこからともなくマツタケの香りがする。手はよくあらったし、不思議に思ったが、出どころは自分たちの耳だった。焼けたマツタケをむしるときに汁にまみれた指先が熱く、何度も耳たぶをつまんでいたという（「耳たぶの秋」）▼うらやましくなるのは、いまの日本におけるマツタケの縁遠さゆえである。それがさらに遠くなりそうな記事がきのうのちょうかんにあった。国際自然保護連合がマツタケを絶滅きぐしゆのリストに載せたという▼理由は採りすぎかと思いきや、そうではなく「健全な松林が減っているため」との専門家の談話があった。食べるのをひかえる必要はないと言われても、安心する人は少ないだろう。「わが家ではとくに絶滅きぐしゆ」。そんなにごうはいもおられるか▼「人新世」という言

葉がある。人類の活動が地球環境を大きく変えてきたことを表現するため、新たにもつけられた時代区分である。ホモ・サピエンスは無数のしゆを絶滅させてきたつみ深い動物であり、そのペースは近年速度を増している▼絶滅きぐしゆのニュースが食卓をちよくげきすることが目立ってきた。マツタケの前には、ニホンウナギにクロマグロ。「○○よ、おまえもか」は、いったいどこまで増えるのだろうか。

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア

*解答のヒントになる漢字はひらがなになっていることがあります。

語注

- *しよきばらい あつさに負けないようにげんきづけること。「しよきはらい」とも。
- *三浦哲郎 1931～2010。小説家。「忍ぶ川」で芥川賞受賞。
- *里山 集落、人里近くの山。
- *肴 酒などを飲むときの食べ物。
- *豪勢 とてもぜいたくなこと。
- *縁遠さ 関係の薄さ。無縁さ。
- *ゆえ 「○○ゆえ」で、「○○だから。○○のため」。
- *絶滅きぐしゆ 絶滅のおそれの非常に高い野生生物。
- *リスト 国際自然保護連合が作成した絶滅のおそれのある野生生物の一覧。レッドリスト。
- *ごどうはい どうはい（年齢や入学や入社時期などがおなじ人）に丁寧の「ご」をつけた表現。相手のどうはいを敬う場合に使う。
- *ホモ・サピエンス 現生の人類を意味する学名。
- *つみ深い つみをいくつも重ねている。
- *ペース 進み具合。テンポ。
- *ちよくげきする 被害をちよくせつ受ける。
- *ニホンウナギ 太平洋のマリアナ海溝近くで産卵し、黒潮に沿って日本や中国、台湾周辺に稚魚がやってくる。2013年には、環境省による日本のレッドリストで絶滅きぐしゆに指定された。
- *クロマグロ マグロ全体の約2%と希少で、ミナミマグロやメバチマグロより高値。卵からの完全養殖はとても難しい。

天声人語

暑気払いに秋の話の一つ。作家の三浦哲郎が、秋の里山に友人と分け入り、マツタケを採ったときのことを書いている。ピールの肴にするべく、すぐにたき火で丸焼きにし、指でむしって食べたというから豪勢だ▼夕方、帰りの汽車に乗ると、どこからともなくマツタケの香りがする。手はよく洗ったし、不思議に思ったが、出どころは自分たちの耳だった。焼けたマツタケをむしるときに汁にまみれた指先が熱く、何度も耳たぶをつまんでいたという（「耳たぶの秋」）▼うらやましくなるのは、いまの日本におけるマツタケの縁遠さゆえである。それがさらに遠くなりそうな記事がきのこの朝刊にあった。国際自然保護連合がマツタケを絶滅危惧種のリストに載せたという▼理由は採りすぎかと思いきや、そうではなく「健全な松林が減っているため」との専門家の談話があった。食べるのを控える必要はないと言われても、安心する人は少ないだろう。「我が家ではとくに絶滅危惧種」。そんなご同輩もおられるか▼「人新世」という言葉がある。人類の活動が地球環境を大きく変えてきたことを表現するため、新たに設けられた時代区分である。ホモ・サピエンスは無数の種を絶滅させてきた罪深い動物であり、そのペースは近年速度を増している▼絶滅危惧種のニュースが食卓を直撃することが目立ってきた。マツタケの前には、ニホンウナギにクロマグロ。「〇〇よ、おまえもか」は、いったいどこまで増えるのだろうか。

2020・7・11